

総合科目

総合学1(総論)・2(展開)・3(各論)

General Studies 1 (General Overview) ・ 2 (Development) ・ 3 (Detailed Discussion)

担当:大久保美紀(総合学1)・小林茂(総合学2)・菅実花(総合学3)・ 立石祥子 ・松井茂・ホアン・マヌエル・カストロ・ 平井靖史 (非常勤)・金山智子・赤松正行・ 原島大輔 (非常勤)・前林明次		
単位:各2単位	履修対象:1年	教室:C404 ホール
学期:前期(6月・7月)、後期(10・11・12・1月)	実施方法:対面	

科目のねらい・特色

総合学は、博士前期課程におけるメディア表現研究に関する研究・制作活動の理論的基盤を体系的に構築することを目的とした3部構成の授業です。まず総合学1(総論)では、主に芸術論・技術論・メディア論という3つの観点から構成される統合的な理論的枠組みを提示します。この枠組みは、続く総合学2(展開)、総合学3(各論)を通じて一貫して用いられます。総合学2では、この理論的枠組みの各概念をより詳細に検討し、相互の関連性を明らかにしていきます。総合学3では、この理論的枠組みを基に具体的な事例について論じ、現代のメディア表現における諸問題と理論を関連付けます。授業全体を通じて、受講者が学んだ理論的枠組みと自身の研究・制作活動を照らし合わせ、独自の理論的視座を確立することを目指します。

到達目標

2年次の作品制作、論文執筆の準備として、芸術論・技術論・メディア論に関する先行研究の中における自身の研究のコンテキストを明らかにすることが目標です。基本的には1年次の履修を想定しています。

講義形態

講義、ディスカッション、レポート等

講義計画・項目

総合学1

- 第1回:芸術論
- 第2回:芸術論
- 第3回:技術論
- 第4回:技術論

- 第5回:メディア論
- 第6回:メディア論
- 第7回:ジェンダー論
- 第8回:アーカイブ論
-

総合学2

- 第1回:身体とアート
- 第2回:生命とアート
- 第3回:アーカイバル・リサーチ
- 第4回:生命と時間
- 第5回:人工知能
- 第6回:メディアとケア
- 第7回:メディア・イヴェント論
- 第8回:分析理論としてのジェンダー論
-

総合学3

- 第1回:オルタナティブ・メディア技術論
- 第2回:エコロジーとアート
- 第3回:文化人類学とアート
- 第4回:ネオ・サイバネティクスと技術多様性
- 第5回:メディアアートにおけるアーカイバル・リサーチ
- 第6回:〈個〉と〈公〉とアート
- 第7回:発表・議論
- 第8回:発表・議論
-

評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	レポート、発表等
日常点	70%	授業への参加度